

第6回厚別区防犯ネットワーク会議 会議録

1 日時・会場

平成26年11月21日（金） 10：30～12：00
厚別区役所2階介護認定審査会室

2 出席者（敬称略）

成田 義則（小学校長会厚別支部）
本望 由佳（厚別区PTA連合会）
和田 政男（厚別警察署生活安全課）
齋藤 歓子（厚別区中学校長会）
新谷 拓朗（厚別区東地区民生委員児童委員協議会）
田中 昭夫（公益社団法人札幌市子ども会育成連合会）
佐藤 三喜（もみじ台まちづくり会議）
秋田 敏隆（青葉地区まちづくり会議）
押田 純（厚別西地区まちづくり会議）
松山 瑞穂（厚別中央地区まちづくり会議）
長谷川雄助（厚別東まちづくり会議）
齊藤 孝幸（北海道コカ・コーラボトリング（株））
大原 治 厚別区市民部長
藏田 忠朗 厚別区市民部総務企画課長
嶋田 愛一 厚別区市民部総務企画課地域安全担当係長
柴田 肇 厚別区市民部総務企画課地域安全担当係

3 会議内容

【1】代表互選

小学校長会厚別支部の成田義則校長を代表として選出

【2】厚別区の犯罪発生状況と厚別警察署の取り組みについて

今年の厚別区と北広島市の刑法犯の発生件数は1437件。今年になって特徴的に増えているのは「車上狙い（前年比+42件）」、「タイヤ盗難（同+60件）」、「空き巣（同+12件）」。他に振り込め詐欺は7件発生し、被害額は2千万～3千万。振り込め詐欺対策として、警察署では電話機に迷惑電話防止のチェックマークを付ける取り組みを始めた。迷惑電話の番号を予め機械に登録し、その番号からかかってきても受け付けないという仕組み。今のところ3台設置済みで、機器は（株）ウィルコムで製造している。料金は2年間無料。2年以降は（株）ウィルコムから更新確認があり、更新の場

合月677円の使用料が請求される。また、講話をしてほしいとか、チェックカーの説明をしてほしいなど要望があれば警察署で対応する。

【3】各構成団体の情報交換

- ・児童にはあいさつをするよう伝えているが、一方では知らない人にあいさつをするなどという考え方もある。そんな中、先週トライアル付近で不審者がいたので、この時はすぐ親に情報を伝え、警察にも通報した。情報の伝達には時間がかかるので、まちづくりセンターに連絡すると全町内に流れるようなシステムがあるとよい。
- ・不審者の捉え方も難しくなっている。例えば、他校の生徒が学校のまわりをうろろして声掛けしている場合は不審者になるのかとか、最近は子どもが家に帰っても親がいないこともあります、公園で遊んでいると親切なおじさんが声をかけてお菓子をあげたりして顔見知りになると、不審者という扱いではなくなってしまう。
- ・子どもの見守りを意識して、5~6年前から朝のゴミ出しを登校の時間帯に、犬の散歩を下校の時間帯にそれぞれ行うようにしている。ボランティアとか町内会活動だと意識すればなかなかやってもらえないで、生活の一つとして捉えてもらうようにしている。
- ・町内会では小学校を対象に青パトを月2~3回実施しており、学校側でも児童に防犯のチョッキを着ている人に声をかけられたらあいさつするように指導してもらっている。町内会が活動をすると学校側も参加してくれるので、今後PTAも参加してもらえるともっと流れがよいかと思う。
- ・町内会では防災福祉支え合い活動として、支援される側と支援する側の調査を6~7月にかけて全戸に文書配布して行った。具体的な活動はまだしていないが、現在民生委員と共に進めている。また、平成23年に自治連から各単町あてに防災福祉支え合い活動の状況を報告するよう依頼し、自治連として共有を図った。結果は各単町で進んでいるところとそうでないところがあった。自治連としては各単町の活動を支援し、情報提供の場を設けることとしている。
- ・子どもの見守りということでは、小学校が中心になって各単町が出席して年に2回くらい意見交換会を行っている。
- ・子どもの見守り運動ということで、営業車を使用して子どもに声掛けをしている。また、防犯・交通安全ということで、子どもに書いてもらったポスターを自販機に貼っている。防災については、DIGを行い、最近ではHUGもやりはじめており、江別市の小学校で1日災害体験も行った。
- ・民生児童委員の中では活動の柱の一つに児童虐待防止があり、厚別区で180人くらいの民生児童委員が児童虐待が発生していないか、常にアンテナを張っている。児童虐待防止強化月間ということで10月になると児童相談所からオレンジリボンが送られてくるので、着用を広める活動もしている。
- ・主としてジュニアリーダー研修会を行っている。小学校5年生から高校生までの子ども達で構成されており、活動時間も小学生は5時まで、中学生は7時まで、高校生は8時までと決めている。
- ・町内会で話題になっているのは、地域がどこまで防犯に取り組めばいいのかという

こと。例えば先日のスクールゾーン実行委員会での話題で、自販機を壊しているところを目撃したので大声で注意したが、後で警察に報告したらそれはよくないと言われた。犯人から腹いせに報復を受けることも考えられるからのようであるが、警察や行政が地域の防犯の取り組み方についてわかりやすく示してほしい。

- ・ 私は以前4年ほど少年補導員をやっていたが、あまり強い注意をしないでくれと言われていた。後をつけられて車を傷つけられたという話も聞いている。
- ・ 声をかけて注意することは最も問題は無い。それで不安になれば、すぐに110番してよい。昔は110番は緊急電話だったが、今は緊急電話ではなく、何でも受け付けている。犯罪が起きにくいところというのは、声掛けをしているところ、あるいは公園がきれいなところである。町の人たちが他人に興味を持って見ていることで犯罪の発生率が低くなり、非行も起きにくくなる。
- ・ 自分の町内会では防災福祉支え合い活動を行っており、若い支援者が支援者心得というものを作成した。これを基に支援が必要な人を訪問しており、実際に訪問中に振り込め詐欺の電話がかかってきて未然に防いだこともある。
- ・ 自分の町内会のまちづくり会議には、いろいろな機関・団体が加盟する防災福祉ネットワーク会議がある。主として防災と福祉の活動であるが、今後は防犯にも目を向けていく必要があると考えている。
- ・ 町内会では、青色パトロール車が6台あって運用しているが、仕事を持っている人は難しいので無職の人が行っている。一番効果があるのは小学校の登校時間に通学路周辺で車から降りての声掛けである。最初は子どもは戸惑って反応は薄かったが、だんだんと手を振ってくれるなど浸透してきている。
- ・ 厚別中学校の隣にくりの木公園があり、最近中学生らしき子ども達がたむろしている。そういうときに青色パトロールで立ち止まると自然といなくなってしまう。声掛けをしなくとも大人が見ているという姿勢を示せばよいと思う。
- ・ 小学校によって帰宅時間が違う。町内会の中でも2つの小学校にまたがっている場合、片方は5時でもう片方が5時半ということもある。
- ・ 小学校の帰宅時間は、秋になれば早くなるが、9月から始めている学校もあれば10月から始める学校もある。
- ・ 町内会の人が登校時に声掛けをしていただいているが、その横をお母さん達が自転車で知らん顔で通って行くということがあり、親の対応が悪いという苦情がある。

【4】議事

(1) 防犯講演会について

- ・ まちセンから地域に不審者出没等の情報が入るが、必ずしも全員に伝わっていない。
- ・ まちセン経由と小学校経由と警察とで連携しており、小学校に情報が入ったら町内会へ、町内会に情報が入ったら青パトを出動するなどの対応をしている。
- ・ 警察では、犯罪情報の「ほくとくんメール」を登録した人に配信しているがリアルタイムではない。緊急性のある内容については警察から直接当事者に連絡している。
- ・ 西まちセンではFAXを使用して情報発信していると思う。
- ・ 北広島市では不審者対応は教育委員会が行っており、CR通信という名称でこれも

FAXを使用して送っている。このFAXはリアルタイムに近い。

- ・ ほくとくんメールなどの情報をどうやって一般家庭の人まで周知をするか。それをこの防犯ネットワーク会議の中で協議していきたい。
- ・ 警察では地域安全ニュースを月に1回発行し、町内会に回覧している。また、地域コミュニティ新聞のまんまる新聞にも犯罪情報を提供をしている。
- ・ キーワードは「情報」だと思う。青パトの声掛けについても、子どもがこの人にはあいさつできると思うことも情報である。例えば本校では畠の先生というものをやつており、老人クラブの人に1、2年生の畠のお世話をしていただいている。その後給食も一緒に食べてもらうと、このおじいちゃんにはあいさつできると思うようになる。
- ・ 先日の区民協議会でも、一般市民にいかにして情報を伝達するかということが話題になり、昔ながらの方法として学校や消防署にスピーカーを付けて放送するという話も出た。メールでの情報配信は、普段メールをやっていない人にはわからない。
- ・ 末端の町内会としては、いろいろなところから情報がくるが、受ける側は一つであるので、できれば入ってくる情報を統一できればよいと思う。
- ・ 防犯犯講演会の議題は「伝達ネットワーク対応」ということでよいのではないか。

(2) 防犯ネットワーク通信について

- ・ ホームページだけであれば見れない人がいるので、町内回覧はできないか。
- ・ 月2回発行のまちづくり通信にうまくかぶせていくければ効率がよい。
- ・ 区役所やまちセンに配架するのもよい。

(3) 厚別区防犯ネットワークとして取り組む新規事業について

- ・ 最近は老人対策が課題。犯罪者も認知症の老人をターゲットにしており、そういう特殊詐欺の件数も増えている。
- ・ 区民協議会でも、増えている高齢者問題の対応についてまとめていく予定。

(4) 今後の事業計画

- ・ 事務局から、3月の第2回防犯ネットワーク会議については、防犯講演会の結果報告や、次年度の事業計画と新規事業を協議する予定であることを説明。

(文責：厚別区総務企画課地域安全担当係)